

## 万教帰一・法燈継承の真理 宿題

### 【選択式問題】

1. 「万教帰一」の意味について説明している。この中から教義に照らして正しいものを選び、番号を○で囲め。
  - 1 仏教も、神道も、キリスト教も、世界に真の平和をもたらすためには、小異を捨てて大同につき、団結すべきである。
  - 2 生長の家はすべての宗教を統合して、“生長の家一色” にしてしまうのである。
  - 3 如何なる宗教でも「生命の実相」の真理に照らしてみれば、その中の正しい教義が判別できこの「正しい教義」の部分は、どの宗教でも一つである。
  - 4 百年も千年も続いている宗教には、人々の心によって支えられてきた伝統というものがある。その宗教的伝統を重んじる「心」に於いて、皆一つなのである。
2. 次の1～4は「万教帰一」について説明している。この中から正しいものを選び、その番号を○で囲め。
  - 1 生長の家では、どんな宗教の方が来られても、その宗教をやめて、生長の家に入信せよとは言わない。
  - 2 人間は、神という一つの設計者によって創られている。だから、宗教も一つの設計のもとにつくられねばならない。「万教帰一」とはすべての宗教の様式を一つの神の設計図のもとに改革することである。
  - 3 生長の家は、あらゆる宗教、教派を、すべて生長の家の下に統合統一することを目的としている。
  - 4 神は人時処三相応に救いの働きを現す。だから、真の宗教は時代、環境に応じて方便を用いて説かれることがある。しかし、その真髄は皆同一で普遍である。
3. 次の1～5は「万教帰一」の観点から「一神教と多神教は矛盾しない」ということの説明である。この中から、教義に照らして間違っているものを選び、番号を○で囲め。
  - 1 神は絶対であって一つだと主張する人は、神という言葉で「宇宙の創造者」としての唯一の神を指している。
  - 2 神は多神だと主張する人々は、「神」という言葉の中に一つの神が衆生の救いの求めに応じて色々顕れるところの「化身の神々」を含めていう。
  - 3 同じ言葉で別々のものを指して、互いに「一神」だ「多神」だと主張し合っているのである。
  - 4 世界に色々の宗教があるということは、宇宙の創造主が多数いるということの証であるから、その矛盾をそのまま受け入れるのである。
  - 5 神は一神であるとともに、「人」と「時」と「処」に応じて、そのあらわれ方が千差万別して人々を救い給うのである。

4. 次の1～4は、生長の家の「万教帰一」について書かれている。この中から正しいものを選び、番号を○で囲め。

- 1 百年も千年も続いている正しい宗教には、人間を根本的に救済する永遠に変わらないところの真理がある。この真理は皆同じ事を説いている。
- 2 あらゆる善き宗教は、一つの大地から生えた樹木のようなものである。樹木にもいろいろの種類があるように、宗教にもいろいろある。しかしそれが生長し、出た元の大地に帰れば形が消えて、個性がなくなる。
- 3 万教は、すべて一つの真理に到達するのである。それらが各々異なる教義だと見えるのは、その宗教の出現した時代の常識や知識の程度に応じた夾雑物がまじっているからである。その夾雑物を取り除けば、みな同一の真理になるのである。
- 4 「生長の家」の真理のみが唯一絶対であるから、すべての宗教を「生長の家」教団の傘下に統合するということが万教帰一の意味である。

6. 「万教帰一」論が書かれている。生長家の教えと異なるものの番号に○をつけよ。

- 1 世界にはいくつもの宗教があるが、生長の家では、それらの宗教の“神髄”の部分は同じ真理が説いていると考える。この考えを「万教帰一」と呼んでいる。
- 2 「万教帰一」この言葉を文字通りに解釈すると。この四文字熟語はむしろ下から上へ逆に読んで、「一つの真理」あるいは「一つの神」から万教が現われてきた、と考える。
- 3 もし「神」なるもの、あるいは唯一絶対の「真理」というものが、絶対の救いの原理が本当に存在するならば、それは「一つ」でなければならない、多くの神が登場する日本の神観とは相容れない。

6. 万教帰一と原理主義の相違について、間違っているものの番号に○を付けよ

- 1 「万教帰一」は人類共通の唯一の救いの原理の存在を前提とし、その唯一の原理の多様な展開を認める。
- 2 「原理主義」は、ある宗教や宗派の特定の経典や聖典に表現された救いの原理を文字どおりに解釈し、そのみを正しいとし、多様な表現を容認しない。
- 3 「万教帰一」の考え方は、宗教上の「原理主義」の考え方に共通する部分がある。

7. 次の1～5は、生長の家の「法燈継承」について説明したものである。この中から教義に照らして正しいものを選び、番号を○で囲め

- 1 生長の家の「法燈継承」とは、原理主義そのものである。
- 2 生長の家の「法燈継承」は、神様より直接選ばれた者だけが、以心伝心で悟ることが出来る。
- 3 「法燈」は、一つの真理(久遠を流るるいのち)そのものを意味します。
- 4 真理(法燈)は、有限であるから、現象界においてそれを人に伝えやすい。
- 5 法燈継承者は、時代が変わり、文化、文明が変われば、それに適した内容に説法を変化させる必要がある。

8. 次の1～4は法燈継承の「面授」について書かれている。この中から正しいものを一つ選び、番号を○で囲め。

- 1 「われこそは尊師の御教えを正しく継承するものである」と本人も教団も認めた者が継ぐ。
- 2 「師と弟子とが対面して、師がそのことを認可しなければならぬ」弟子が勝手に自分で決める問題ではない。
- 3 世間の見識者が、この講師は信仰心が深いし、講話も上手であるからと認めた者。
- 4 真理の理解も深く、体験も豊富であり、幹部として長年活躍し、多くの人々を救っている講師だと認めた者が継ぐ。

9. 次の1～4は、法燈継承の「不立文字」について書かれている。その中から、正しいものを選び、番号を○で囲め。

- 1 継承とは、大聖師谷口雅春聖師のお説きになった一言一句を、その通りまた繰り返してお伝えするのである。
- 2 教えの神髄の不立文字をお伝え頂き、それを継承するということである。中心帰一を貫くこと。
- 3 教えの根本はしっかり把握しながら、時代や環境の変化に応じて、いろいろな姿をもって人類光明化運動、国際平和信仰運動をさらに積極的に展開していくもの。

# 万教帰一・法燈継承の真理 宿題 解答

## 【選択式問題】

1. 「万教帰一」の意味について説明している。この中から教義に照らして正しいものを選び、番号を○で囲め。
- 1 仏教も、神道も、キリスト教も、世界に真の平和をもたらすためには、小異を捨てて大同につき、団結すべきである。
  - 2 生長の家はすべての宗教を統合して、“生長の家一色”にしようとするのである。
  - ③ 如何なる宗教でも「生命の実相」の真理に照らしてみれば、その中の正しい教義が判別できこの「正しい教義」の部分は、どの宗教でも一つである。
  - 4 百年も千年も続いている宗教には、人々の心によって支えられてきた伝統というものがある。その宗教的伝統を重んじる「心」に於いて、皆一つなのである。
2. 次の1～4は「万教帰一」について説明している。この中から正しいものを選び、その番号を○で囲め。
- ① 生長の家では、どんな宗教の方が来られても、その宗教をやめて、生長の家に入信せよとは言わない。
  - 2 人間は、神という一つ的设计者によって創られている。だから、宗教も一つ的设计のもとにつくられねばならない。「万教帰一」とはすべての宗教の様式を一つの神的设计のもとに改革することである。
  - 3 生長の家は、あらゆる宗教、教派を、すべて生長の家の下に統合統一することを目的としている。
  - ④ 神は人時処三相応に救いの働きを現す。だから、真の宗教は時代、環境に応じて方便を用いて説かれることがある。しかし、その真髄は皆同一で普遍である。
3. 次の1～5は「万教帰一」の観点から「一神教と多神教は矛盾しない」ということの説明である。この中から、教義に照らして間違っているものを選び、番号を○で囲め。
- 1 神は絶対であって一つだと主張する人は、神という言葉で「宇宙の創造者」としての唯一の神を指している。
  - 2 神は多神だと主張する人々は、「神」という言葉の中に一つの神が衆生の救いの求めに応じて色々顯れるところの「化身の神々」を含めていう。
  - 3 同じ言葉で別々のものを指して、互いに「一神」だ「多神」だと主張し合っているのである。
  - ④ 世界に色々の宗教があるということは、宇宙の創造主が多数いるということの証であるから、その矛盾をそのまま受け入れるのである。
  - 5 神は一神であるとともに、「人」と「時」と「処」に応じて、そのあらわれ方が千差万別して人々を救い給うのである。

4. 次の1～4は、生長の家の「万教帰一」について書かれている。この中から正しいものを選び、番号を○で囲め。

- ① 百年も千年も続いている正しい宗教には、人間を根本的に救済する永遠に変わらないところの真理がある。この真理は皆同じ事を説いている。
- 2 あらゆる善き宗教は、一つの大地から生えた樹木のようなものである。樹木にもいろいろの種類があるように、宗教にもいろいろある。しかしそれが生長し、出た元の大地に帰れば形が消えて、個性がなくなる。
- ③ 万教は、すべて一つの真理に到達するのである。それらが各々異なる教義だと見えるのは、その宗教の出現した時代の常識や知識の程度に応じた夾雑物がまじっているからである。その夾雑物を取り除けば、みな同一の真理になるのである。
- 4 「生長の家」の真理のみが唯一絶対であるから、すべての宗教を「生長の家」教団の傘下に統合するということが万教帰一の意味である。

6. 「万教帰一」論が書かれている。生長家の教えと異なるものの番号に○をつけよ。

- 1 世界にはいくつもの宗教があるが、生長の家では、それらの宗教の“神髄”の部分は同じ真理が説いていると考える。この考えを「万教帰一」と呼んでいる。
- 2 「万教帰一」この言葉を文字通りに解釈すると。この四文字熟語はむしろ下から上へ逆に読んで、「一つの真理」あるいは「一つの神」から万教が現われてきた、と考える。
- ③ もし「神」なるもの、あるいは唯一絶対の「真理」というものが、絶対の救いの原理が本当に存在するならば、それは「一つ」でなければならない、多くの神が登場する日本の神観とは相容れない。

6. 万教帰一と原理主義の相違について、間違っているものの番号に○を付けよ

- 1 「万教帰一」は人類共通の唯一の救いの原理の存在を前提とし、その唯一の原理の多様な展開を認める。
- 2 「原理主義」は、ある宗教や宗派の特定の経典や聖典に表現された救いの原理を文字どおりに解釈し、それのみを正しいとし、多様な表現を容認しない。
- ③ 「万教帰一」の考え方は、宗教上の「原理主義」の考え方に共通する部分がある。

7. 次の1～5は、生長の家の「法燈継承」について説明したものである。この中から教義に照らして正しいものを選び、番号を○で囲め

- 1 生長の家の「法燈継承」とは、原理主義そのものである。
- 2 生長の家の「法燈継承」は、神様より直接選ばれた者だけが、以心伝心で悟ることが出来る。
- ③ 「法燈」は、一つの真理(久遠を流るるいのち)そのものを意味します。
- 4 真理(法燈)は、有限であるから、現象界においてそれを人に伝えやすい。
- ⑥ 法燈継承者は、時代が変わり、文化、文明が変われば、それに適した内容に説法を変化させる必要がある。

8. 次の1～4は法燈継承の「面授」について書かれている。この中から正しいものを一つ選び、番号を○で囲め。

- 1 「われこそは尊師の御教えを正しく継承するものである」と本人も教団も認めた者が継ぐ。
- ② 「師と弟子とが対面して、師がそのことを認可しなければならぬ」弟子が勝手に自分で決める問題ではない。
- 3 世間の見識者が、この講師は信仰心が深いし、講話も上手であるからと認めた者。
- 4 真理の理解も深く、体験も豊富であり、幹部として長年活躍し、多くの人々を救っている講師だと認めた者が継ぐ。

9. 次の1～4は、法燈継承の「不立文字」について書かれている。その中から、正しいものを選び、番号を○で囲め。

- 1 継承とは、大聖師谷口雅春聖師のお説きになった一言一句を、その通りまた繰り返してお伝えするのである。
- ② 教えの神髄の不立文字をお伝え頂き、それを継承するということである。中心帰一を貫くこと。
- ③ 教えの根本はしっかり把握しながら、時代や環境の変化に応じて、いろいろな姿をもって人類光明化運動、国際平和信仰運動をさらに積極的に展開していくもの。